

米国における海外留学の現状と

促進に向けた取組みの最前線

—Forum on Education Abroad (フォーラム) の活動から—

ボストンカレッジ博士課程学生

Center for International Higher Education

(国際高等教育センター)

リサーチアシスタント 新見 有紀子

Yukiko Shimmi

はじめに

筆者は現在米国のボストンカレッジ大学院にて高等教育を専攻しながら、本大学院の国際高等教育センターで世界の高等教育の動向や政策などの比較分析などのリサーチアシスタントとして働いている。今回の留学に際して、日本学生支援機構の留學生交流支援制度（長期派遣）による奨学金支援を受け、学業に専念できる環境を与えていただいていることを大変感謝しており、この留学の成果を通じて、日本のさらなる発展に貢献したいと強く願っている。本稿では、米国の高等教育機関からの海外留学について、Institute of International Education (IIE)の報告書に基づいて、米国での海外留学の傾向および課題と提言に触れた後、Forum on Education Abroad（以下、フォーラムと省略）という海外留学に特化した組織における最前線の取組みと年次大会からの報告をしたい。すでに日本でも実施されている取組みや、文化や制度などの差によって、直接応用できない事例も含んでいるとは思いますが、米国での事例紹介を通じて、少しでも日本からの海外留学促進、動機付け支援の参考になればと思っている。

1. 米国における海外留学の傾向と長期的な戦略

IIE という国際教育交流に関する米国の代表的な機関が発行している 2010 年の「Open Doors Report」によると、2008 年から 2009 年の 1 年間の米国からの海外留学者数は 260,327 人であり、この数は 10 年前の数の 2 倍以上となっている。米国からの海外留学先国の上位は、英、伊、西などの西欧圏であるが、アジアやラテンアメリカ、アフリカなどへの留学も増えており、近年海外留学先は多様化している。留学期間による内訳は、短期留学（本稿では、短期留学とは夏・冬休み中または 8 週間以内の留学を指すものとする）が全体の 55%、次いで 1、2 クォーターまたは 1 セメスターの留学が 41%、1 年の留学が 4% となっており、比較的短期の海外留学が大きな割合を占めており、今後もこのような傾向は続いていくとみられる。2009 年に IIE は、フォ

一ラムが米国の290の高等教育機関を対象にして実施した調査をもとに海外留学促進に関する報告書「Expanding Study Abroad Capacity at U. S. Colleges and Universities (米国の大学における海外留学定員拡大にむけて)」を発行した。その報告書では、米国の大学における海外留学促進のための課題の分析と、長期的な戦略提言がなされている。米国の大学における海外留学の促進のための主な課題としては、財政的側面(留学費用の高騰、奨学金等支援の充実の必要性)と人的側面(教員や職員の人員・協力的体制の不足)が挙げられ、米国からの海外留学を増やすための長期的な5つの戦略として①学科・学部や、上級管理職からの支援を確立する、②機関として海外留学への財政的な支援を挺入れする、③海外留学へ教員の関与の機会を増やし、カリキュラムへの統合を奨励する、④大学全体として海外留学の文化を醸成し、海外留学の重要性の認識を共有する、⑤多様な海外留学の機会(短期や、教員主導のプログラム)を提供する、などに言及している。米国では引き続き、米国からの留学生の増加を通じて海外留学の量的な拡大を促進する一方で、海外留学プログラムの質の向上についても重要視する声が高まっている(Stroud, 2010)。以下では、そのような海外留学プログラムの質の向上に関して重要な役割を果たしているフォーラムという組織による最前線の活動と、年次大会からの議論について報告をしたい。

2. フォーラムについて

海外留学分野の発展に資することを唯一の目的とした米国における組織、フォーラムは、海外留学送り出しに特化した組織の必要性を感じた担当者たちによって2000年5月に立ち上げられた(URL: <http://www.forumea.org/>)。フォーラムは、海外留学経験が学生にとって、より有意義なものとなるよう、海外留学プログラムの改善と質の向上のための活動と、海外留学関連の研究者や教育機関の海外留学担当者向け支援を行っている。フォーラムの主な活動内容は、海外留学プログラムの優良な事例についての基準の開発と施行、海外留学に関する研究の奨励と支援、フォーラムの会員に対する教育機会や資料の提供などであり、具体的には、海外留学プログラムの好事例基準(Standards of Good Practice)の構築、海外留学に関連したカリキュラム開発、データの収集、海外留学の学習成果分析(Learning outcome assessment)について重点的に取り組んでいる。フォーラムは、米国の大学等の機関を主な会員としているが、その他に海外の教育機関やコンソーシアム、国内外の留学プログラム提供機関や個人会員もいる。なお、フォーラムの活動と学習成果分析については、芦沢、長澤、野田(2008)の先行調査研究が参考になる。また、Lewin, R. (2009)による海外留学促進に向けた包括的な文献「The handbook of practice and research in study abroad (海外留学の実践と研究のハンドブック)」もフォーラムが実施している活動との関連性で重要な資料である。以下では、フォーラムの主な取り組みや支援内容の中から、海外留学プログラムの好事例基準の構築、海外留学の学習成果分析に関する研究支援、

そして、2011年度の年次大会での議論について述べる。

2-1. フォーラムによる好事例基準 (Standards of Good Practice)

フォーラムは米国司法省と米国連邦取引委員会から、海外留学についての標準開発機関として認められており、フォーラムの策定した好事例基準 (Standards of Good Practice) は海外留学プログラムの質の評価に関する信頼のおける基準として認識されている。フォーラムは、それぞれの大学における好事例は、その大学の理念や学生層等を吟味すること無しに実現することはできないとの前提に立っており、その前提をもとに、優れた海外留学プログラムの実施機関の事例として、以下の9つの基準を提示している。①海外留学プログラムの実施機関は、海外留学に関して、機関全体および個々の海外留学プログラムごとに公式に設定した理念を持ち、それらが機関の教職員に周知され、受入れられていること。②海外留学による学生の学習と発達を促進する教育目的を述べ、それら教育目的の達成度合いについて内部および外部評価制度を確立し、定期的実施すること。③海外留学プログラムに関連した学術的な枠組み（単位互換制度、実地先での指導法、大学教育との関連性、学業面・就職面の考慮など）についての方針を明確に述べ、公表し、維持すること。④学生の海外学習環境の準備のために、海外留学プログラムの理念や、学生の必要性に応じたアドバイジングやオリエンテーションなどの支援を提供すること。⑤海外留学プログラムへ参加する学生に対する公平かつ適切な選抜方法と実施規範についての責務を維持し、公表すること。⑥海外留学プログラムやその実施に関して規律する方針や手順を策定の上、その方針に従ってプログラムを実施すること。⑦海外留学プログラムを支援するために、十分な財政的支援と人的資源を提供すること。⑧学生の健康、安全、危機管理についての効果的な方針、実施手順、および教職員への研修法を策定し、継続して実施すること。⑨実施機関独自の倫理規定および（または）海外留学に関するフォーラム策定の倫理基準を順守するよう海外留学担当従業員へ教育をすること。以上の基準に照らし合わせることで、海外留学プログラムの実施機関は、実施している海外留学プログラムに関して客観的に検討することが可能である。またフォーラムは、現在米国で増加傾向にある短期留学に特化した好事例基準も2009年に公表しており、加えて、2011年度の年次大会においてはRobinson(2011)などによって今後さらに増加が見込まれるインターンシップ留学、ボランティア留学に関する基準設定についての議論がなされていた。さらにフォーラムは、この好事例基準をもとに、「Quality Improvement Program for Education Abroad (海外留学の質改善プログラム)」という自己点検および外部評価を通じた厳格な質保証の枠組みを、会員の教育機関へ有料で提供している。この質改善プログラムを利用することで、実施機関は、海外留学プログラムごとに客観的で厳格な評価と、質改善のための具体的な方法案や実施計画などの提供を受けることができる。この質改善プログラムを完了すると、評価を受けた海外留学プログラ

ムは、フォーラムから好事例基準に基づいて質改善に取り組んでいるという認識を受け、留学対象の学生、親だけでなく大学側の関係者等へ向けた客観的な質保証の指標としても利用可能となっている。

2-2. 海外留学の学習成果の分析・評価

海外留学プログラムの質の向上と関連して、フォーラムでは海外留学の学習効果分析に関しても重点的に支援を行っている。海外留学が個人に及ぼす効果についての既存の学術研究の蓄積は限られているため、フォーラムは、海外留学の学習成果分析に関する資料の収集を積極的に行っており、海外留学プログラムの効果測定に関する既存の学術研究をまとめてホームページで提示し、海外留学の効果の評価法についてのガイドラインである「A Guide to Outcomes Assessment in Education Abroad(海外留学の学習成果分析へのガイド)」の出版も行っている。また、フォーラムは海外留学効果測定のための学術研究に対しての支援も行っている。その例として、1990年代初頭から International Beliefs and Values Institute (IBAVI) という機関で取組まれていたプロジェクト「Beliefs, Events and Values Inventory (BEVI; 信念、出来事、価値観の一覧表)」に対して、フォーラムは2007年から支援を行い、2010年にはワーキンググループを設立している。このプロジェクトでは、人々の人生を通じての経験、文化、文脈が、どのように個人の信念、価値観、世界観を形作り、それらが人々の学習過程や人間関係、個人的成長、そして人生の目標などにどのように影響を与えるかについて分析する基盤を提供することを目的としている。この目的は海外留学という経験とも深く関連しているため、研究成果が海外留学の学習成果分析に貢献することが期待されている。また、フォーラムは「Study Abroad for Global Engagement (SAGE; グローバルエンゲージメントのための海外留学)」というミネソタ大学の研究チームとの合同プロジェクトへの支援も行っている。このプロジェクトでは海外留学が長期的に及ぼす学習効果について、個人の成長、専門性の発達、そして個人の公共の利益への貢献という観点から明らかにしようとしている。以上2つの先進的な海外留学の学習成果分析の研究支援の他に、フォーラムでは毎年新たな留学効果に関する学術研究に対しての賞も提供している。

2-3. 2011年度フォーラム 年次大会からの報告

フォーラムは、2002年以降年次大会を開催しており、海外留学プログラムのさらなる質向上のために、米国や海外の大学や教育機関で海外留学関連の研究を行う研究者や大学院生、海外留学担当者等に向け貴重な機会を提供している。このたび、7回目となる年次大会が2011年4月6日から8日にかけてボストンで行われ、1000名以上の参加があった。大会では、すでに述べた好事例基準の策定や、海外留学の学習成果分析に関する取組みの最新の調査報告や議論などを含む、海外留学に関する学術的な

研究成果などの発表および海外留学担当者による先進的な取組みについての紹介が、計60のパネルディスカッションや、ラウンドテーブルと呼ばれる形式（共通に抱える問題や課題について参加者同士がグループで対応策を話し合い、その後会場内でグループでの話し合い内容を発表し合う）で行われ、ブース展示やネットワークづくりのためのイベントなども実施された。以下では、今回のフォーラムの年次大会での議論の中から、すでに述べた好事例基準や学習成果分析以外の、米国における海外留学の促進や動機付けに向けた最前線の取組みについて言及したい。

① 海外留学に関する情報提供の充実

海外留学に関する情報提供の充実や、入学前や入学後の学生への早い段階での情報提供の仕組みづくりは、多くの米国の大学で重要視されている。特に、ホームページによる情報公開の充実に加え、フェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディアの有効活用が注目されている。また学生の親に対する情報提供や支援も米国の大学で広がってきているようである。海外留学の促進や支援の充実のため、海外留学帰国者、海外経験のある教員および同窓生、留学生、学生団体など、学内外のリソース活用も広く実践されてきている。

② 海外留学のカリキュラムへの統合、出発前・留学中・帰国後の支援

海外留学と、留学前後の大学生活との関連性を高める動きも一つの傾向といえる。海外留学を大学4年間の学業の一環としてカリキュラムに統合し、卒業単位としても問題なく換算されるような制度を整備する動きが注目を集めている。また、海外留学に参加する学生に対しての出発前準備、留学中の学習支援、留学後の再適応・継続学習支援を一つのシステムとして包括的に行う取組みが広がってきている。海外留学と帰国後の学業やキャリア支援と結び付けた取組みも多く、留学前の動機の明確化支援や、海外留学経験の効果的な履歴書への記載方法や面接対応準備の支援も多くの大学で実施され始めている。

③ 危機管理

海外留学の危機管理対応についても、米国の海外留学担当者間で意識が高まっており、対応の整備・充実が急務であるという認識が共有されていた。特に今回のフォーラムは、日本での震災の直後に開催されたこと、ハイチやニュージーランドでの震災、中東での政治情勢の不安定などを受けて、地域や危機の種類ごとに特化した情報提供や、情報交換の機会が提供されていた。米国の大学では、危機管理に特化した第三者機関による学生の避難支援サービスの利用も広がっているが、各大学によって対応は異なっているため、今回のフォーラムの年次大会を利用して、大学間での情報交換が活発になされていた。

おわりに

本稿では、米国における海外留学促進のための取組みとしてのフォーラムという組織を中心に取り上げた。フォーラムは、海外留学プログラムの好事例基準の策定や、海外留学の学習成果分析・評価に関する研究の支援などを通じて海外留学の質向上のために重要な役割を果たしている。また、フォーラムの年次大会は、海外留学担当者が最新の研究結果および他機関での先進的な事例に触れ、自大学での取組みの参考としたり、他機関の担当者や研究者との情報交換やネットワーキングなどの貴重な機会ともなっている。このようにフォーラムは、米国における海外留学担当者たちが、専門性をさらに高めるための有意義な基盤を提供しており、今後もこの分野において重要な役割を果たしていくことが期待される。このような米国における最前線の取組みの紹介を通じて、今後の日本での海外留学促進、動機付け支援への参考となれば幸いである。

参考文献

- Bolen, M. C., & Forum on Education Abroad. (2007). *A guide to outcomes assessment in education abroad*. Carlisle, PA: Forum on Education Abroad.
- Forum on Education Abroad. (2009). *Standards of good practice for short-term education abroad programs*. Retrieved from <http://www.forumea.org/documents/ForumEAStandardsShortTermProg.pdf>
- Forum on Education Abroad. (2011) Retrieved from <http://www.forumea.org/>
- Forum on Education Abroad. (2011). *Standards of good practice for education abroad*. (4th. ed) Retrieved from <http://www.forumea.org/documents/ForumEA-StandardsGoodPractice2011-4thEdition.pdf>
- Gutierrez, R., Bhandari, R., & Obst, D. (2009) Expanding U.S. study abroad capacity: Findings from an IIE-Forum survey. In *Expanding Study Abroad Capacity at U.S. Colleges and Universities* (pp. 6-20). IIE Study Abroad White Paper Series, Issue No. 6. New York: Institute of International Education. Retrieved from: <http://www.iie.org/en/Research-and-Publications/Publications-and-Reports/IIE-Bookstore/Expanding-Study-Abroad-Capacity-at-US-Colleges-and-Universities>
- Institute of International Education. (2010). *Open doors 2010 U.S. study abroad: Press release*. Retrieved from <http://www.iie.org/en/Who-We-Are/News-and-Events/Press-Center/Press-Releases/2010/2010-11-15-Open-Doors-US-Study-Abroad>
- Lewin, R. (2009). *The handbook of practice and research in study abroad: Higher education and the quest of global citizenship*. New York: Routledge.

- Robinson, L. (2011). The forum standards project for work, internships, and volunteering abroad. Presented at the Annual Conference of the Forum on Education Abroad.
- Stroud, A. (2010). Who plans (not) to study abroad? An examination of U. S. student intent. *Journal of Studies in International Education*, 14(5), 491-507.
- 芦沢真五、長澤 誠、野田文香(2008)「米国高等教育における国際化戦略と評価」(編者：芦沢真五) 広島大学高等教育研究開発センター、「高等教育研究叢書」100号.